

ブータン王国サッカー国内リーグの変遷
— 2010年～2017年までの実態調査を基に —

松山 博明 松井 健 馬込 卓弥
 辰本 頼弘 巽 樹理

Changes in the Bhutanese national soccer league
— Based on a survey conducted from 2010 to 2017 —

Hiroaki MATSUYAMA Takeshi MATSUI Takuya MAGOME
Yoshihiro TATSUMOTO Juri TATSUMI

ブータン王国サッカー国内リーグの変遷 — 2010年～2017年までの実態調査を基に —

松山 博明 松井 健 馬込 卓弥
辰本 頼弘 巽 樹理

Changes in the Bhutanese national soccer league
— Based on a survey conducted from 2010 to 2017 —

Hiroaki MATSUYAMA Takeshi MATSUI Takuya MAGOME
Yoshihiro TATSUMOTO Juri TATSUMI

要 約

本研究ではBLの歴史の変遷を実態調査し、ブータンサッカーの発展の経過とその要因を明らかにすることを目的とした。文献調査とインタビュー調査による基幹質問の6項目の結果から、ブータンサッカーの発展にはFIFAゴールプロジェクトとスポンサーシップ、海外派遣サッカー指導者によるコーチング効果が大きく影響したと考えられる。FIFAゴールプロジェクトでは、2012年のFIFAゴールプロジェクトによってグラウンドの質が向上し、それに伴って、プレーの質も向上できる環境が整った。スポンサーシップでは、企業とスポーツ組織は、資金・資源を投資または支援する相互交換関係が生じて、ブータンサッカーの活性化につながったと考えられる。海外派遣サッカー指導者では、サッカーの持つ可能性を大いに広げ、ブータンサッカーに良い刺激を与えたなどのコーチング効果があったと考えられる。以上のことから、2008年から海外派遣サッカー指導者を派遣し強化を図り、2012年から、BLからBNLにリーグを改革し、2019年11月現在では、FIFAランキング189位（210チーム中）にまで上昇した。また、2018年には、ロシアワールドカップ1次予選を突破したことで国民全体のサッカー人気が高まっており、今後もリーグの発展が期待できると考えられる。

KEY WORD：ブータン、サッカー、海外派遣サッカー指導者、国内リーグ、歴史

1. はじめに

ブータンサッカー協会（Bhutan Football Federation：以下BFFとする）は、1983年に設立された。アジアサッカー連盟（Asian Football Confederation：以下AFCとする）には1993年に、加盟した。また、国際サッカー連盟（Fédération Internationale de Football Association：以下FIFA）には2000年に、また、南アジアサッカー連盟（South Asian Football Federation：以下SAFFとする）には、2005年に加盟した。2002年のFIFAワールドカップ決勝戦の日（2002年6月30日）に当時のFIFAランキング最下位のモントセラト代表とその一つ上の順位のブータン代表が、ブータン王国（以下：ブータンとする）の首都ティンブーのチャンリミタン競技場（国立競技場）で「もう一つの決勝戦」と題し、国際Aマッチを行い、ブータン代表は、地の利を生かし4対0で勝った。これを、ドキュメンタリーとして映画化した「THE OTHER FINAL」が、世界中で話題となった。2002年日韓ワールドカップ時には、ブータンでもかなりの注目があり、多くの国民が観戦し、サッカーに対する関心が年々高まってきた。このような最下位決定戦を行っていたブータンサッカーであったが、サッカーの本格的な強化を行うために以前から交流があった公益財団法人日本サッカー協会（Japan Football Association：以下JFAとする）との間で2008年からJFAアジア貢献事業の派遣を行うことになった。JFAアジア貢献事業は、アジア間での人材の活発な交流を行い、共存共栄を目指している。これまでブータン代表チーム監督として、2019年まで7名の指導者が派遣されている経緯がある（JFAの海外派遣, online）。現在では、海外派遣サッカー指導者の日々の強化によって、2019年11月現在では、189位（210チーム中）にまで上昇した（FIFAランキング, online）。JFA（2007）は、過去の経験や実績を基にした強豪国のデータ分析によると、その国の強い代表チームを望む場合、代表選手たちを集めてそのチームだけを強化しても追いつかない。短期ばかりでなく、中期・長期にわたって、育成年代、指導者養成、普及と言った総合的な取り組みをして初めて、その国の力がついていくと説いている。その中で、ブータンサッカーを強化するために不可欠な1986年から開始されたブータンリーグ（以下：BLとする）の発展が大きな原動力となっている。BFFテクニカルディレクターは、「第1に、サッカーを普及し、楽しんでもらうこと、第2に、タレントを発掘し、選手が活躍することを考えている。そのために、アマチュアやプロのピラミッド型を構築することである。」と述べている（アジアサッカー研究所, online）。これまでのブータンサッカーに関する先行研究では、松山ら（2014）の海外スポーツ指導者派遣事業の現状と課題にしたJFAアジア貢献事業ブータン王国サッカーの実践活動を中心に行った研究や松山ら（2015）の海外スポーツ指導者派遣事業の現状と課題ーアジア貢献事業ブータン王国サッカーU-19アジア選手権の実践活動を中心に行った研究がある。これらの研究は、ブータン王国での3つの国際大会などの実践活動を中心に準備期間中と試合中の課題の2つに分類し、さらにそれらをそれぞれ4項目に分類し分析した。その結果、育成年代からのシステムを構築し、技術や戦術及びメンタルの指導を徹底させる必要

があるなど、強化育成環境の整備と選手の発掘育成システムを構築することの重要性が述べられている。また、各地域でのサッカーの普及活動と試合環境の改善をすることが必要であると報告されている。代表チームに関しては、より多くの国外強化遠征による豊富な国際経験を積むために、近隣諸国との親善試合を積極的に行うことが必要であると報告されている。その理由の一つとして、2011年BLにおいては、7月10日から7月29日までの約1か月間、7チームで総当たりの1ステージ制のリーグ戦を行ったのみであった。そのため、代表チームの選考会は、選考会前に参加者の多くがトレーニングを継続的に行っていなかったことが挙げられている。こうした代表チームを支える国内リーグの重要性が確認されているにも関わらず、これまでブータンの国内リーグに着目したBLの歴史の変遷を実態調査した研究はいまだ行われていないのが現状である。また、ブータンサッカーの強化の鍵となるBLの歴史の変遷を明らかにすることは、今後、日本から派遣された指導者にとっても、ブータンのサッカー事情を把握するうえで非常に重要である。そこで、本研究ではBLの歴史の変遷を実態調査し、ブータンサッカーがどのように発展したのかを明らかにすることを目的とした。

2. 方 法

研究代表者本人がブータンの首都ティンプー市にあるBFFに出向き、調査の目的などを簡潔に説明し、文献調査とインタビュー調査を行った。

2. 1. 調査内容

文献調査とインタビュー調査に関しては、2016年と2017年の計2回に分けて合計2日間実施した。

2. 1. 1. 文献調査

文献調査では、BFFに出向き、過去の蓄積した歴史資料として存在する2010年から2017年までの文献を中心に調査した。調査の内容として、主に公益財団法人日本プロサッカーリーグ（Japan Professional Football League：以下Jリーグとする）ハンドブック（Jリーグ、2019）とJリーグクラブライセンス交付規則・交付規則運用細則（Jリーグ、2018）の項目を参照した。その後、歴史資料として必要な年号、リーグ名、実施方法、実施時期、実施場所、地域リーグ参加クラブ、登録メンバー、ブータンナショナルリーグ（以下：BNLとする）参加クラブ、外国人登録、外国人指導者数、スポンサー数、運営費の11項目にまとめた。

2. 1. 2. インタビュー調査

本研究では、基幹質問をあらかじめ準備し、1対1の半構造化面接法によるインタビュー調査を実施した。調査手順として、まずBFFのリーグに詳しい大会運営スタッフのK氏に質問し、

リーグの歴史の変遷を聞き取った。基幹質問は、①リーグ発足の状況、②施設等の変化の状況、③リーグ期間中のスタッフや外国人選手の状況、④リーグ期間中レギュレーション変化の状況、⑤スポンサーシップ、⑥海外派遣サッカー指導者についての状況の6項目であった。

さらに、より深い個性を抽出するために、補足的な質問を適宜加えてインタビュー調査を実施した。インタビュー時間は、K氏が合計97分であり、指定した場所は、BFF内の会議室であった。また、筆者は、インタビュー調査開始時に本人の承諾を得て会話をICレコーダーに録音した。なお、本人の年齢、性別、調査日時については個人情報秘匿する目的から呈示しない。

2. 2. 調査期間

2016年8月16日と2017年8月20日の合計2日間実施した。

3. 結果

BFFにおける調査内容をもとに文献調査とインタビュー調査を表1にまとめた。

3. 1. 文献調査

BFFにおいて、蓄積されている過去の資料を閲覧し、まとめた。

3. 2. インタビュー調査

K氏からのインタビュー調査の基幹質問6項目は以下の内容であった。

①リーグ発足の状況

1986年から2011年までは、BLとして1部リーグ制（ティンブー開催で1ラウンドのみ）の1か月間（7月10日から7月29日）の間、7チームで総当たりの1ステージ制のリーグ戦を行った。ティンブー以外の地域では、開催されていなかった。

②施設等の変化の状況

実施場所においても、2011年までBLとして、ティンブー2会場（チャンミリタン国際競技場/チャンジジ運動場）だけであったが、2012年から、BNLとして、ティンブー2会場とその他に3会場（プナカ、ブンツォリン、サムチイ）に増加した。また、2012年以降、チャンミリタン国際競技場が人工芝となった。2013年にもチャンジジ運動場が人工芝となった。それ以降、プナカ、チラン、ブンツォリンなどで人工芝が設置されるようになった。

③リーグ期間中のスタッフや外国人選手の状況

外国人登録選手が2010年は3名（インド3名）、2011年は4名（インド4名）であった。しかし、2012年は13名（インド8名/ネパール3名/ナイジェリア2名）、2013年は25名（インド12名/ネパール9名/ナイジェリア3名/アイルランド1名）、2014年は28名（インド16名

/ネパール9名/ナイジェリア2名/アイルランド1名)であった。2012年から、リーグ戦に参加する外国人登録が増加した。

外国人スタッフは、これまでJFAアジア貢献事業の海外派遣サッカー指導者が在籍している以外は見当たらなかったが、2015年、2016年には4名(タイ3名/スペイン1名)、2017年は4名(タイ3名/イングランド1名)と他国の外国人スタッフも参加することになった。

④リーグ期間中大会規定の変化の状況

2012年から、BLからBNLに名称を変更した。2部リーグ制となり、実施時期も4ヶ月に延長された。地域リーグは、2ヶ月(4月～5月)実施した後、リーグ戦での上位クラブがBNLに参加できる。BNLは、2ヶ月(6月～7月)ホーム&アウェイ方式となり、ティンブー上位4クラブ/プナカ上位1クラブ/プンツォリン上位1クラブ/サムティ上位1クラブが参戦することになった。

⑤スポンサーシップの状況

2011年までは、スポンサーがなかった。そのため、BLは、BFFが中心となり資金運営をしていた。しかし、BNLとなり、2012年から2014年までの3年間、コカ・コーラがスポンサーシップとなりサポートした。その後、2015年から2017年までの3年間、ブータン銀行(Bank of Bhutan：以下BOBとする)がサポートするようになった。これにより、BFFのみならずクラブ組織と、それらに資金や資源を投資または支援する企業との関係が出来上がった。

⑥JFAアジア貢献事業の海外派遣サッカー指導者について

2008年4月から行徳浩二氏がブータン代表チーム監督兼アカデミーヘッドコーチとして赴任した後、多くの指導者が代表チーム兼アカデミーヘッドコーチやゴールキーパーコーチとして派遣されている。これまでJFAアジア貢献事業の海外派遣サッカー指導者の方々が積み上げてきた、ブータンと日本との信頼関係がしっかりと構築されている。したがって、これからはBFFのUgen Tsechup Dorji会長、Ugyen Wangchhuk専務理事を中心としたスタッフ、コーチ達と連携を取り、ブータンサッカー界の発展に寄与してほしい。

4. 考 察

BFFにおける文献調査の内容とインタビュー調査によって得た基幹質問の11項目の結果から、BLの発展には、FIFAゴールプロジェクト¹⁾とスポンサーシップ、海外派遣サッカー指導者が大きく影響したと考えられる。

4. 1. FIFAゴールプロジェクト

これまで、ブータンは、サッカー場の建設および改修、練習及び授業を行うセンター設立をサポートするFIFAゴールプロジェクトを活用して、BFFのオフィス並びにアカデミーの設立とともにチャンジジ運動場と合宿所を建設した。さらに2012年のFIFAゴールプロジェクトによって、チャンミリタン国際競技場が人工芝となった。2013年にもチャンジジ運動場が人工芝となった。このプロジェクトを機にBLのレギュレーションの改編やグラウンドの質が向上したと考えられる。2008年4月から2010年までブータン代表の監督に就任し、翌年は同国U-15、U-19代表監督も兼任した行徳浩二氏によると「グラウンドは土で、石がゴロゴロしていて、練習中や試合中に犬や牛が横切るなんてこともあった。」また、「比較的暖かな6月～8月は完全な雨季のため、毎日泥のグラウンドで、12月～3月の乾期の午後は風が強く、砂漠の砂嵐のような中でサッカーをしている。」「このようなグラウンドの不足、コンディションはブータンの選手の技術の習得に大きく影響する。」と述べている。しかし、その後、2012年のFIFAゴールプロジェクトによって、チャンミリタン国際競技場やチャンジジ運動場が人工芝になった。2012年5月から2014年までブータン代表の監督の小原一典氏によると「チャンリミタン競技場は、FIFAのゴールプロジェクトにより、2012年12月にブータン初の人工芝競技場に生まれ変わった。この落成とともにブータンで初めての全国リーグがスタートした。ティンプーからはリーグの上位3チーム、他県から3チームが参加している。試合は週末のみ行われ、ホーム&アウェイ方式で約3カ月にわたって開催された。それまでのリーグ戦はティンプーのみで短期集中開催されていたので、ブータンサッカーにとっては画期的な出来事である。“試合→トレーニング→試合”というサイクルと、グラウンドの質の向上に伴って、プレーの質も向上することが期待できる。」と述べている（JFA公認指導者の海外派遣。国際交流・支援活動、online）。このことから、2012年のFIFAゴールプロジェクトによって、グラウンドの質の向上に伴って、プレーの質も向上できる環境が整った。また、ブータンで初めての全国リーグがスタートし、プロリーグとしてAFCにも認定されているため上位チームにはAFCカップ（AFCチャンピオンズリーグの下位リーグ）への出場権も与えられるようになり、アジア諸国との接点が広がったと考えられる。

4. 2. スポンサーシップ

2012年から2014年までの3年間、コカ・コーラがスポンサーシップとしてサポートした。その

後、2015年から2017年までの3年間、BOBがサポートするようになり、リーグ名称をバンク・オブ・BNLに変更した。そのことによって、2011年まで運営費は、100,000ニュルタム（以下：Nとする）（152,637円）（1 N=1.52637円として換算）であった。しかし、2012年から1社だけではあるが、コカ・コーラがスポンサーとなり、BNLでは、ティンブーリーグ（以下：TLとする）100,000N（152,637円）、ナショナルリーグ（以下：NLとする）700,000N（1,068,459円）の運営費が増加した。また、2015年以降、BOBがスポンサーとなり、TL400,000N（610,548円）、NL10,00,000N（1,526,370円）の運営費が増加した（ブータン・ニュルタム, online）。

今回、BNLにおいてコカ・コーラやBOBの企業は、スポーツ・スポンサーシップとして、テレビや競技場、イベント会場など様々な場面において、企業名や商品・サービス名をブータンの各会場で目にするが多かった。こうした企業は自社名や商品・サービス名を掲載してくれる媒体に金銭や物品を提供しており、その目的は企業目的やマーケティング目標の達成であると考えられる。また、これらのスポーツ・スポンサーシップにおいては、「スポーツイベントやクラブ、チームを経営するスポーツ組織と、それらに資金や資源を投資または支援する企業との相互交換関係」が生じているといえる（Copeland et al., 1996；藤本, 2011；McCarville & Copeland, 1994）。ブータンのサッカー界においてもこの相互交換関係が普及・定着し、リーグの発展につながったものと考えられる。

4. 3. 海外派遣サッカー指導者

2008年4月から行徳浩二氏がブータン代表チーム監督兼アカデミーヘッドコーチとして赴任した後、2019年まで7名の指導者が代表チーム監督兼アカデミーヘッドコーチやゴールキーパーコーチとして派遣されている（JFA, online）。松山ら（2019）の海外派遣サッカー指導者のコーチング効果を検証した研究結果によると、特に育成年代の選手において、技術面での、「ボールコントロール中イメージをもってプレーしている」、「様々な種類のキックを蹴ることができる」、戦術面での「素早く適切なポジショニングを取ることができる」などのコーチング効果があったことが報告されている。また、2017年から2年間、U-14、U-17のブータン代表監督を務めた李成俊氏によると「ブータンには歴代の日本人指導者達による功績が多くある。」「その一つとして、サッカーにおける規律と取り組む姿勢、そして、技術・戦術はもちろん、サッカーの持つ可能性を大いに広げ、ブータンサッカーに良い刺激を与えた。」そして、「ブータンの選手やスタッフは日本代表、Jリーグ、JFAの取り組み、つまり日本サッカー全体をリスペクトしてくれている。」と述べている（JFA公認指導者の海外派遣・国際交流・支援活動, online）。このことから、派遣された指導者が、コーチング効果をより強く発揮するためには、短期ではなく、中・長期的なビジョンを打ち出して、継続的に育成年代から指導する必要があると考えられる。

以上のことから、2008年から海外派遣サッカー指導者を派遣し強化を図り、2012年から、BLからBNLにリーグを改革し、2019年11月現在では、FIFAランキングの189位にまで上昇した

(FIFA ランキング, online). また, 2018年ロシアワールドカップ1次予選を突破したことでサッカーも国民全体に人気が出てきたと考えられる.

5. 結 論

本研究ではBLの歴史の変遷を実態調査し, ブータンサッカーがどのように発展したのかを明らかにすることを目的とした. BFFでの文献調査から, 過去に蓄積された資料を閲覧した内容とインタビュー調査による基幹質問6項目の結果から, BLの発展的変遷にはFIFAゴールプロジェクトとスポンサーシップ, 海外派遣サッカー指導者によるコーチング効果が大きく影響したと考えられる.

5. 1. FIFAゴールプロジェクト

2012年のFIFAゴールプロジェクトによって, グラウンドの質の向上に伴って, プレーの質も向上できる環境が整った. また, ブータンで初めての全国リーグがスタートし, プロリーグとしてAFCにも認定されているため, 上位チームにはAFCカップ(AFCチャンピオンズリーグの下位リーグ)への出場権も与えられるようになり, アジア諸国との接点が広がったと考えられる.

5. 2. スポンサーシップ

スポンサーシップによって, スポーツ組織やスポーツイベントに投資する企業との間には, 「クラブを運営するスポーツ組織と, それらに資金・資源を投資または支援する企業との相互交換関係」が生じて, ブータンサッカーの活性化につながったと考えられる.

5. 3. 海外派遣サッカー指導者

海外派遣サッカー指導者は, サッカーの持つ可能性を大いに広げ, ブータンサッカーに良い刺激を与えたなどのコーチング効果があったと考えられる. このことから, コーチング効果をより強く発揮するためには, 短期的な期間ではなくの長期的・中期的なビジョンの基で, 継続的に育成年代から指導する必要があると考えられる.

以上のことから, 2008年から海外派遣サッカー指導者を派遣し強化を図り, 2012年から, BLからBNLにリーグを改革し, 2019年11月現在では, FIFAランキング189位にまで上昇した. また, 2018年ロシアワールドカップ1次予選を突破したことでサッカーも国民全体に人気が出てきたと考えられる.

注 記

1) FIFAゴールプロジェクト

FIFAゴールプロジェクトとは、1999年から2015年までに実施されたFIFAゴールプロジェクトであり、インフラ整備、組織体制作り、教育（指導者・審判・スポーツ医学など）、ユース育成等へのFIFAの助成制度である。その究極の目標は、各国のサッカー協会を権威あるサッカー協会にすることである。ゼップ・ブラッター第8代FIFA会長が提案し、1999年7月9日にロサンゼルスで開催されたFIFA臨時総会で批准された。FIFAゴールビューローが、全サッカー協会からゴールプロジェクトの対象協会を選び、その協会に合わせた助成を行う。FIFAゴールビューローは、FIFA技術委員会から選ばれた6名のメンバーで構成される。各サッカー協会の優先課題に応じて、ゴールプロジェクトは次の分野で支援する。支援活動としては、大きく分けて5つある。まず1つ目にインフラとしてのサッカー協会オフィスビル建設などである。次に教育支援として、管理の方法、コーチング、スポーツ医学、審判などをサポートする。3つ目に管理方法として、国および地域団体、員などの組織体制を整備する。4つ目にユースサッカーにおいては、ユース指導者養成、優秀な選手の育成、サッカースクール開催などである。5つ目は、ゴールプロジェクト対象協会のニーズに基づくその他の分野への支援である。尚、FIFAは、こうした対象協会との協力関係を強化するため、世界中に開発事務所が設置されている。開発事務所には、高度な資格を持つFIFAの専門家である開発担当役員が配置されている。各開発事務所は、事務所近接の約15-20の各サッカー協会の開発を委任されている。各開発事務所は各サッカー協会に近いので、協会のニーズをより詳細に分析でき、またプロジェクトの監督および管理が容易になる。たとえば、インフラ整備で同プロジェクトから助成を受けるには、対象協会がその施設の土地を使用する権利を25年間持つことが条件であった。1プロジェクトに対し、40万USドル（約4,000万円）まで助成可能で、プロジェクト終了後、増築などの目的で、2期プロジェクトを申請し、許可されれば、再度40万USドルの助成を受けることができた（Goal Project-An introduction-FIFA公式HP, online.）

引用・参考文献

- アジアサッカー研究所
<https://http://www.jaifaf.asia/column/1646>, (2017年10月10日参照).
 プータン・ニュルタム (BTN)
<https://jp.fxexchangerate.com/btn/> (2019年11月25日参照)
 Copeland R, Frisby W&McCarville R (1996). Understanding the sport sponsorship from a corporate perspective. *Journal of Sport Management*, 10(1), 32-48.
 FIFAランキング<http://www.tsp21.com/sports/soccer/fifaranking.html>,
 (2019年11月27日参照).
 藤本淳也 (2011) スポーツ・スポンサーシップ. 原田宗彦 (編). スポーツ産業論 (第5版). 杏林書院: 東京, pp.189-202.
 Goal Project - An introduction-FIFA公式HP
<https://www.fifa.com/about-fifa/who-we-are/news/goal-project-introduction-81676>
 (2002年3月26日配信)
 JFA公認指導者の海外派遣www.jfa.or.jp/, (2013年6月10日参照).
 JFA (2007) サッカー指導教本2007. サンメッセ: 東京, pp.10-86.
 JFA (2013) JFA PLOFILE. JFA機関紙, pp.1-26.
 JFA公認指導者の海外派遣<https://www.jfa.or.jp/>, (2018年6月10日参照)
 JFA公認指導者の海外派遣. 国際交流・支援活動<http://www.jfa.or.jp/jfa/international/dispatch/report/ohara.html> (2019年11月25日参照)
 Jリーグ (2018) Jリーグクラブライセンス交付規則・交付規則運用細則, アサヒビジネス(株): 東京, pp.1-124.
 Jリーグ (2019) Jリーグハンドブック. アサヒビジネス(株): 東京, pp.1-164.

松山博明，土屋裕睦，堀野博幸，須田芳正（2014）海外スポーツ指導者派遣事業の現状と課題－JFAアジア貢献事業，ブータン王国サッカーの実践活動を中心に－．大阪体育学研究，Vol.52，15-22.

松山博明，土屋裕睦（2015）海外スポーツ指導者派遣事業の現状と課題－アジア貢献事業ブータン王国サッカーU-19アジア選手権の実践活動を中心に－．スポーツ産業学研究，Vol.25，No.1：111-122.

松山博明，上田滋夢，上林功（2019）海外派遣サッカー指導者におけるコーチング効果の実態調査－ブータンサッカー代表選手の競技力向上に関する考察－．追手門学院大学社会学部紀要，Vol.13，1-10.

McCarville R & Copeland B（1994）Understanding sport sponsorship through exchange theory. Journal of Sport Management, 8(2)，102-114.

南アジアサッカー選手権2011 ja.wikipedia.org/wiki/, (2013年6月10日参照).